染色整理加工場の戦略

～コスト上昇の中で～

短納期化へ積極投資

若手人材確保も

艶栄工業

カーテン地、合成皮革、衣料の染色受託加工メーカー、艶栄工業（愛知県蒲郡市）は今期（2018年11月期）、さらに積極的な設備投資と若手の人材確保に注力する。カーテン地を中心に需要が旺盛な「SHS」加工の短納期化を図るのが狙い。

SHSは、精機セルロース繊維「テンセル」向けに対応したニドム加工をさらに独自技術で開発した新加工。近年、特にカーテン地で高級感のある独特の膨らみとドレープ性が好評で、毎年受注が増加する中、設備の増設とオペレーターを増やすことによって、加工能力の拡大を図る。

期末には、そのSHS加工のベースとなる最新付帯設備（乾燥機等）1セットの導入を予定する。投資額は建屋を含めて総額2億円。前々期から高億円ほど投資していたが今回の導入で納期の3割短縮と2割の増産を目指す。

人材確保も積極的に推進する。16年12月に鹿児島県に高校生を対象としたリクルート事務所を設置した。鹿児島、熊本、宮崎の各工業高校を昨年から定期的に訪問する。南九州では染色企業の人材募集は珍しいものの、反応は良く来春、複数の新卒採用を見込む。

同社の現従業員は68人。今後、70人台を目標とし、技術の継承と生活資材など新たな加工分野の展開も視野に入れる。

「クリーズケア」好調

新たな機能加工の開発も

鈴木晒整理

染色整理加工の鈴木晒整理（浜松市）は、昨年春に発表した天然繊維の繊の機能を加工で補った環境配慮型の商品として訴求できれば」と語る。

機能性を重視するのは、パソコンやスマートフォン上でも消費者に分かりやすく伝えるため。衣料品では電子商取引（EC）をはじめネットでの販売が加速。「画面で

ケア性、着用時のシワの回復性、防縮性に優れる。綿や麻素材だけでなく、セルロース系の再生繊維まで対応できる。発表以

車両用けん引し好業績

本社、石川で染色機増強

尾張整染

尾張整染（愛知県一宮市）は2018年3月期、売上高で前期比8％増、営業利益で80％増と好業績となる見通しだ。

主力であるカーシート地など車両用がけん引する。大幅な増益は「回転率や生産効率の向上が寄与する」と中島俊広取締役車輌インテリア事業部長兼総務部長。受注増により本社工場の生産量は昨年平均の月産60万㍍から90万㍍に拡大。石川工場（石川県能美市）は100万㍍を維持した。

産業資材用での開拓も進む。「メッセナゴヤ」など異業種展に出展することで「問い合わせ、取り組み先も少しずつ増えている」と手応えを示し、インテリアを含めて車両以外の開拓も引き続き強化する。

19年度に向けては車両用の受注増に対応し、本社、石川両工場で染色機を1台ずつ増やす。さらに「永遠の課題」とする人材育成も強化する。今春には久しぶりに新卒を採用することもある。また「多少の浮き沈みがあったとしても将来に向けた基盤を作る」として、無駄の排除や修繕など工場の改革を進める。同社は基本1週間で対応するなど品質安定と納期管理が強みだが、さまざまな加工を施せることも売り。「他社でできることは全てできる」と言う。

グループの独自性生かす

情報発信も強化

山陽染工

山陽染工（広島県福山市）の受注量は全般的に前年比で微減傾向が続く。定番的な加工受注が堅調な一方で、アパレルのトレンドを反映した加工が減少傾向にある。

海外も含めた新規取引先、供給先の開拓を重視しており、各種展示会への出展のほか、インターネットでの情報発信に注力する。

特に2017年からは、会員制交流サイト（SNS）での情報発信に注力しており、染色加工業が衣料品に高い付加価値を与える存在であることを幅広くアピールする。

企画開発では、グループ企業の中国紡織（広島県福山市）、山陽染工児島ファクトリー（岡山県倉敷市）が持つ独自性を生かした連携を継続する。

18秋冬向けに打ち出す毛足の長いコーデュロイ生地とインディゴ染めを組み合わせた企画は、同社の高い技術力による希少性を打ち出す。

硫化中白染めの「ダスティー加工」とハードコーティングの組み合わせやメランジ調の霜降り表現ができる「スプレンダー加工」とタンブラー加工、樹脂コーティング加工の三つの加工組み合わせなど、自社グループの特徴ある加工との組み合わせによるバリエーション拡大を図る。

毛足の長い生地とインディゴ染めを組み合わせるには高い加工技術が必要

加工量は弱含み推移

人工皮革用途が減少

正織興業

正織興業（岡山県倉敷市）の2017年11月期決算は若干の減収減益と

前年並みを維持したが、それ以前（15年）と比べると加工量は低い水準が続いており、受注減は長期化の様相を見せて

削減に重点的に取り組み、「少しずつだが、いい傾向は見えてきた」（姫井社長）。

15年に開始したポリエステル基布の人工皮革染色では技術確立も進み、受注量も増えている。姫井社長は「当面はスポット案件を獲得していき、